

平成 31 年 3 月 6 日

静岡県清水港湾交流センター等指定管理者 日の出ドリームパーク 平成 30 年度年間評価結果

静岡県清水港湾交流センター等指定管理者評価委員会
会長 関 いずみ

以下のとおり年間評価を報告する。

- 1 対象施設** 日の出駐車場、日の出緑地及び遊歩道、待合所、港湾関連団体用業務室、静岡県清水港湾交流センター
- 2 評価期間** 平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月（実績見込みを含む）
- 3 評価日** 平成 31 年 2 月 18 日（月）
- 4 評価委員**

氏名	役職等
和泉 清明	いずみ公認会計士事務所
◎関 いずみ	東海大学海洋学部海洋文明学科教授
中野 民雄	静岡文化芸術大学デザイン学部准教授
藤田 綾子	静岡商工会議所女性会会長
村松 正章	静岡市経済局商工部港湾担当部長

（敬称略、五十音順、◎：委員長）

5 評価

（1）主な意見

- ・清水港は地元密着型の港であり、その特性がよく活きるイベント（地元参加型）などが多数実施されており、地域活性化への貢献度は高い。
- ・施設の老朽化が進む中で、維持管理への対応や財政的な負担は、今後増加する見込みであり、計画的な維持・管理が求められる。
- ・駿河湾フェリーの運航体制の変更に伴い、新運営主体との密な連携を図り、より一層の利用促進を期待する。

（2）評定

評価	点数
優 おおいに評価できる	137.9 点 / 150 点満点（得点率：91.9%）

6 項目別意見

総括評価

- ・万人の関心事である「食」という切り口で、関連地元施設とのタイアップによる食関連イベントなどを四季を通じて行ってはどうか。
- ・若い人が多く参加できるようなイベントの誘致や取組をお願いする。
- ・清水港に限らず「オール静岡」としてPRやおもてなしを打ち出してはどうか。
- ・事故の回避はもちろんのこと、施設の長寿命化を図るという観点から日常におけるパトロール、保守点検をさらに強化していく必要がある。

I 本業務の実施体制

- ・実施体制に関しては、問題なく整えられている。
- ・組織内での情報伝達、共有も充分行われている。
- ・施設内に動線が分かりづらい箇所や危険箇所が見られるため、明確化や安全確保のための標示を行った方が良い。

II イベント等の実施

- ・地元の人を楽しめるイベントの開催により、港と人の距離がとても近くなっている。
- ・継続性の高いイベントが多く、安定的な施設の運営につながっている。
- ・外国人対応としてトイレの全ウォッシュレット化してはどうか。
- ・地元の人を楽しめるイベントを増やして欲しい
- ・外航船内覧会について、旅行会社とタイアップしてはどうか。

III 利用促進策

- ・タイムリーな情報発信は重要であり、よく対応されている。
- ・ネットを使わない世代や人への情報提供は工夫が必要

IV 利用者ニーズの把握とフィードバック

- ・利用者への対応は、施設全体のイメージを決定する部分であり、内部での情報共有やクレームへの素早い対応については、よく対応できている。

V 安全管理

- ・特になし

<参考> 評価方法

1 評価項目

- ・総括目標と5つの分野別目標を設定

区 分		項目数
総括目標	賑わい空間創造等	—
分 野 別 目 標	I 本業務の実施体制	3
	II イベント等の実施	5
	III 利用促進策	3
	IV 利用者ニーズの把握とフィードバック	2
	V 安全対策	2
	計	15

2 採 点

- ・各分野の評点項目（計15）ごとに10点満点で採点

点 数	評 価
10	大いに事業計画以上の成果が挙げられている
⋮	⋮
5	概ね事業計画を達成している
⋮	⋮
0	事業計画が達成されていない

- ・各委員の評点合計の平均点をその得点率に応じて4段階で評価

区分	得点率	摘 要
優	最高点(150点)の85%(127.5点)以上	大いに評価できる
良	70%(105点)以上85%(127.5点)未満	評価できる
可	50%(75点)以上70%(105点)未満	普通
要改善	50%(75点)未満	改善を要する